

## スイスフランに見る通貨の運命

昨今内外で銀行のリストラは珍しくないが、ドイツ銀行のトレーディング部門を含めたリストラ計画が報じられたのを見て、そのタイミングに驚いた。ボーナスの発表の前に実行すると言われているからだ。そうするとボーナスを受け取れない者が出る可能性がある。当事者にとっては由々しき問題だ。

以前所属していた英国の銀行で債券ディーラーが大もうけして多額のボーナスを期待したが、ほんのわずかしか払われなかった。年が明けてドル金利が高騰し年初から大幅な損失を抱えてしまったことが理由だった。ボーナスは前年の業績に対してであり、本来は翌年の損失は関係ないはずだが、銀行は認めなかった。彼は裁判を起し、結局和解が成立したが業界に戻ることはなかった。

ところで金融機関に浮き沈みは付き物だが、通貨にもある。スイスフランは変動相場制移行後しばらく、ドル、マルク、ポンド、円と並ぶ主要通貨の一角を占め市場での取引量も多く、専任のディーラーを置く銀行も少なくなかった。

だが現在、市場での取引量の割合は4.8%（2016年 BIS 調査）で全体の7番目に落ちた。オーストラリアドルとカナダドルに抜かれ、次の調査では人民元にも抜かれる可能性が高い。

スイスフランと言えば安全通貨、避難通貨の代名詞だが、一時ほどの力はない。スイスの金融機関の魅力であった匿名性などがマネーロンダリング規制で低下したこともある。

とは言っても安全通貨、避難通貨の役割を喪失したわけではない。特にユーロに問題が生じたときにはその役割を発揮する。

ユーロスイスは2015年に1.20の下限の設定がはずれた後、下限をかなり下回る水準（ユーロ安フラン高）で推移していたが、今年になって1.18台と近づいてきた。この間、当局はスイスフラン売りユーロ買いの市場介入やマイナス金利の導入などの対策を講じたが、そうした政策が実ってきたとも言える。ただ何といたってもユーロが堅調に推移していることが大きい。ユーロあつてのスイスフランだ。

SNB（スイス中央銀行）のマイナス金利を含めた金融政策の変更も ECB の出口戦略を見てからということになる。

ドイツ銀行の件はどうなるかわからないが、ディーラーたちの幸運を祈らずにはられない。